

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	16-007	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Breast cancer screening attendance in two Swiss regions dominated by opportunistic or organized screening. 組織型検診と任意型検診のスイス 2 地域における乳がん検診の受診割合		
執筆者		
Eichholzer M, Richard A, Rohrmann S, Schmid SM, Leo C, Huang DJ, G�uth U.		
掲載誌		
BMC Health Serv Res. 2016 Sep 23;16(1):519.		
キーワード		PMID
乳がん、マンモグラフィー、受診、組織型検診、任意型検診		27663642
要 旨		
目的： 組織型検診（フランス地域）および任意型検診（ドイツ地域）実施のスイス 2 地域における、乳がん検診受診割合に影響する要因を検討した。		
方法： Swiss Health Survey 2012 に参加した 2,769 名の女性（50-69 歳）を対象に、電話による聞き取り調査およびアンケート調査を行った。教育歴、居住地、国籍、婚姻、喫煙、飲酒、身体活動、食事、健康観、既往歴、通院、がん検診の有無を要因とし、乳がん検診の受診有無（過去 2 年以内/2 年より前）との関連を検討した。ロジスティック回帰分析により、各要因と乳がん検診受診との関連を、オッズ比(OR)および 95%信頼区間(95% CI)にて地域別に算出し、さらに地域間の交互作用について検討した。		
結果： 過去 2 年以内の乳がん検診の受診割合は、ドイツ地域 34.9%、フランス地域 77.8%であった。フランス地域において、適量飲酒（エタノール<20g/日 vs 0g）は有意に受診割合が高かった（OR (95%CI)=2.01 (1.28-3.15)）。両地域において、定期的な通院者（1-5 回 vs 0 回）は有意に受診割合が高かった（ドイツ地域 3.96 (2.58-6.09), フランス地域 7.25 (4.04-13.01)）。また、乳がん検診受診割合と有意な関連を示した、子宮頸がん検診および大腸がん検診（受診なし vs あり）の OR (95%CI) は、それぞれドイツ地域 0.44 (0.25-0.79)、0.66 (0.52-0.84)、フランス地域 0.57 (0.35-0.91)、0.52 (0.33-0.83)であった。地域差に影響する要因および地域間の交互作用は認められなかった。		
結論： 乳がん検診受診割合の地域差を説明する要因は本研究では認められなかった。ドイツ地域における、乳がん検診の低受診割合の要因究明が今後の検討課題である。		